玄海原子力発電所3号機で計画　プルサーマルの必要性と安全性を探る

玄海原子力発電所（東松浦郡玄海町）3号機で計画されているプルサーマルについての公開討論会（九州電力主催）が二月二十日、玄海町町民会館であった。計画をめぐり賛否双方で議論する初めての機会。公募で選んだ地元住民と原子力の専門家らが、計画の安全性や経済性などについて、それぞれの立場から意見を交わした。

使用済み燃料から回収したプルトニウムとウランの混合酸化物（MOX）燃料を軽水炉で燃やすプルサーマル計画は、現在、国が安全審査中。審査終了後に地元玄海町と県が、住民や県民の「理解」を判断して事前了解願にする決断を示すことになる。理解度を測る上で注目された公開討論会の議論を紹介する。

プルサーマル公開討論会詳報

討論者の顔ぶれ

【コーディネーター】
木元教子さん（評論家）
【公募パネリスト】
岩下孝嗣さん（玄海町）
坂本　洋さん（唐津市）
寺田信子さん（玄海町）
冨田隆明さん（唐津市）
三浦正之さん（唐津市）
三根慶三さん（唐津市）
【専門家パネリスト】
出光一哉九州大学大学院教授
工藤和彦九州大学大学院教授
豊島耕一佐賀大学教授
吉岡　斉九州大学大学院教授
【経済産業省】
野口哲男内閣官房参事官
【九州電力】
松下清彦常務取締役原子力発電本部長

コーディネーター
木元　教子さん

吉岡　斉さん　出光　一哉さん　野口　哲男さん　工藤　和彦さん　松下　清彦さん　豊島　耕一さん

市民パネリスト発言

資源の有効利用には一理　寺田

【木元】私が委員を務める、九電の努力と住民の理解を求める原子力委員会は、国の計画通りプルサーマルを進めるべきだと考えている。計画の是非を問うのではなく、どのようにプルサーマルを進めるかを考えてきた。

【岩下】日本のエネルギー源は石油や石炭、天然ガス、ウランなど。ほとんどが輸入に頼っており、技術立国の日本は原子力の平和利用を推進すべきと考えるべきだ。

【坂本】「賛成派」の人でも、安全性に対する関心、危険なものでもあり、立地地域選択困難極まる。地盤が強固で地震が少ない、住民の理解がある玄海町に地元、1号機の運転開始から三十年。

【坂本】国源がない。ドイツ行くのも電力会社の石炭が豊富だ。また、ウランなど宣伝で、資源源と電源線がつながり、電調のエネルギーが強かしかし、よく引き合いに出される。ドイツは、原子力を段階的に減らされるドイツも、生活レベルはげんそんなに資源源風力エネルギーに比べると、はないのに、電力自化のものは、それれ、選択できるようにも、原子力はやめるべきだ。

【木元】ただ、自化で比べるとは、自化で比べるとは、自化で比べるとは